

研究テーマ	物語のイメージ化を図り、創造的に活動できる児童の育成を目指す指導の工夫 一小学2年「見て見て ぼく・わたしが考えた家」の実践を通してー
-------	--

高萩市立高萩小学校 教諭

I 研究テーマについて

新学習指導要領では、これまでの学習指導内容に加え、さらに「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善をすることで、学習活動の質の向上を目指している。图画工作科においても、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、見通しと振り返りの場面、対話する場面、児童が考える場面と教師が支援する場面を計画的に組み立て、実現を図っていく必要がある。「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」という目標に迫れるように、より一層児童に寄り添った立場で指導を行うことで、さらなる深化を目指していきたい。

II 研究の実践

1 題材名 「見て見て ぼく・わたしが考えた家」

2 題材の目標

- (1) 物語を読んで、好きな場面を立体に表すことを楽しもうとしている。 (造形への関心・意欲・態度)
- (2) 想像力を働かせ、好きな場面を見付けたり、表し方を考えたりすることができる。 (発想や構想の能力)
- (3) つくりたい窓やドアの形に合わせて、カッターナイフの使い方を工夫することができる。
つくりたい場面の様子が分かるように、工夫して表すことができる。 (創造的な技能)
- (4) 友人と作品を見せ合い、場面の様子や家の様子の工夫について、よさを感じることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

(平成30年11月27日実施 30人)

1 カッターナイフを使ったことはありますか。	・ある・・・11人 (一人で・・・5人、家人と一緒に・・・6人) ・ない・・・19人
2 作品(工作)をつくるときには困ることはどんなことですか。 (複数回答)	・思った通りにつくれない(16人) ・アイディアが浮かばない(7人) ・材料を上手に使えない(7人) ・材料がない(6人) ・道具(はさみ、のり、カッターなど)が上手に使えない(6人)
3 アイディアが浮かばない時、どうしていますか。	・友達の作品を参考にする。(14人) ・本などを見て参考にする。(11人) ・先生に聞く。(3人) ・友達と一緒に考える。(2人)
4 本の主人公の家をつくります。どんな材料でつくりたいですか。 (複数回答)	・色紙・フェルト・爪楊枝・モール・空き箱・磁石・毛糸・布 ・もめん糸・綿・ペットボトルのキャップ・ゴム・ビーズ・紙袋 ・段ボール・スポンジ・画用紙・トイレットペーパーの芯・ストロー ・紙テープ・マスキングテープ・紙粘土・ボタン・紙コップなど

アンケート結果から、カッターナイフを使ったことのない児童がほとんどであることが分かった。また、使ってみたい材料の種類がこれだけ多く出てきたのは、1学期の「ざいりょうからひらめき」での学習や現在活動中である生活科の「おもちゃランド」でのおもちゃ製作などの経験により、広がったものと考える。ただ、まだまだ店に売っているものを買ってきて、そのまま使おうとする傾向が見られる。ほとんどの児童は進んで作品づくりに取り組める。しかし、一部の児童でイメージは持てるが、どのようにつくったらよいか分からず手が止まってしまったり、はさみの使い方が苦手で思った形にならなかつたり、接着の仕方がうまくいかず、仕上がりが思い描いていたものと違つてしまつたりするなどの様子が見られる。

(2) 題材観

本題材では、カッターナイフの扱いに慣れ、工作用紙に家の窓やドアをつくり、さらに、場面の様子を思い浮かべながら主人公の家を立体で表すことをねらいとしている。

(3) 指導観

児童の悩みであるアイディアが浮かばないということに対しては、授業で突然題材を提示するのではなく、事前に内容を知らせる方法を取り入れる。(=0時間の工夫)。このことで、児童は進んで本を選んだり、挿絵をじっくり見たり、場面の様子を読み取ろうとする意識が高まり、自分なりに表したい場面のイメージをもつことができると言える。そのためにも、事前に図書館から借りてきた物語の本を教室に置き、いつでも自由に本が読める環境を整えておく。また、製作途中に、児童と対話することで発想を広げていけるような支援を行う。導入時の参考作品提示では、完成品を見せるのではなく、空き箱を土台にして色工作用紙で家をつくること、カッターナイフを使って窓やドアをつくることなど、活動の見通しをもたせることと、製作するにあたって参考作品にとらわれすぎないようにするためにあえて製作途中のものを提示する。さらに、既製品に頼りがちな児童のために、教師は身の

回りの日用雑貨品や廃材などを用意して材料コーナーに並べて置き、児童が自由に手に取って手ざわりなど質感を確かめられるようにする。授業の始まり及び終わりの5分程度に鑑賞タイムを設けることで次時への製作意欲を持たせるようとする。カッターナイフの使い方に慣れていない児童が多いため、基本的なことから丁寧に教える必要がある。拡大掲示物を準備するとともに、実物投影機を使って実際に教師の手の動きを見せたり、不安な児童には、一緒に手を取ったりして手の動きを実感できるよう支援する。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・好きな物語を読み、自分が選んだ場面をつくることを楽しもうとしている。	・想像力を働かせ、自分が選んだ登場人物の家の表しを考えている。	・つくりたい家の様子が分かるように工夫して表している。 ・つくりたい家の窓やドアの形に合わせて、カッターナイフの使い方を工夫している。	・自分や友達がつくった作品を見て話合い、工夫しているところのよさを感じている。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

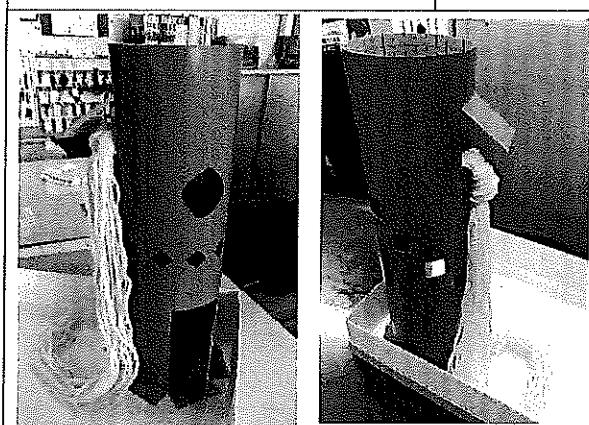
時間	学習内容・活動	評価規準【評価方法】
第1次 ①	自分の好きなお話を選び、表したい場面のアイディアスケッチをする。	・表したい場面の様子を思い付いて、それを生かしながらアイディアスケッチをすることができる。 関【観察、ワークシート】
第2次 ① ②	カッターナイフの使い方を練習し、家の窓やドアをつくる。	・つくりたい窓やドアの形に合わせて、カッターナイフの使い方を工夫している。 技【練習用ワークシート、作品】
第3次 ① ② ③ ④	物語の場面に合った家をつくる。	・工作用紙を土台にした家を基に、物語の主人公に合った家の形や飾りを思い付いている。 ・つくりたい家に合わせて材料の組合せ方を工夫している。 発【観察、作品】 技【観察、作品】
第4次 ①	友達と作品を見せ合いながら、窓の形や家の様子などのよさを話し合う。	・自分の作品や友達の作品のよさを見付け、家の工夫を話し合っている。 鑑【観察、発表、ワークシート】

6 指導の実際

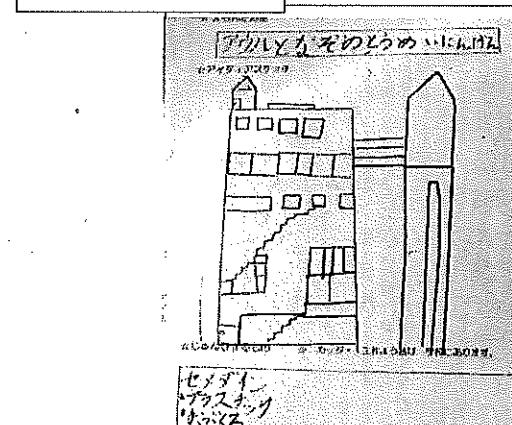
第1次 自分の好きなお話を選び、表したい場面のアイディアスケッチをする。(1時間)

参考作品を見て、窓やドアをカッターナイフで切り開くこと、家の周りに飾りをつけることを理解し、自分が選んだ本の挿絵を基に、自分なりの家をスケッチした。次週の製作につながるよう、準備物もワークシートに書かせた。

参考作品『塔の上のラプンツェル』



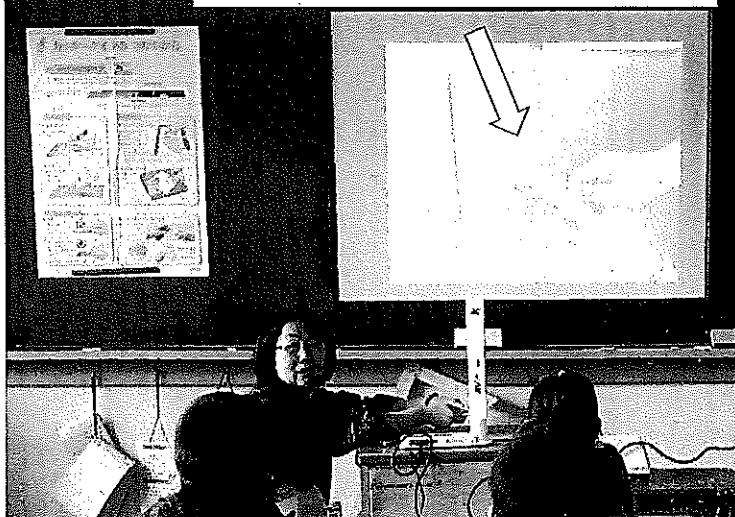
アイディアスケッチ



第2次 カッターナイフの使い方を練習し、家の窓やドアをつくる。(2時間)

- ① 児童にも実際にカッターナイフを持たせ、掲示物で説明する。
- ② 実物投影機で、実際にカッターナイフで紙を切る実演を行う。

左人指し指をカッターに添えるとよいことを補足する。



<カッターナイフを使うときの注意> 掲示用資料

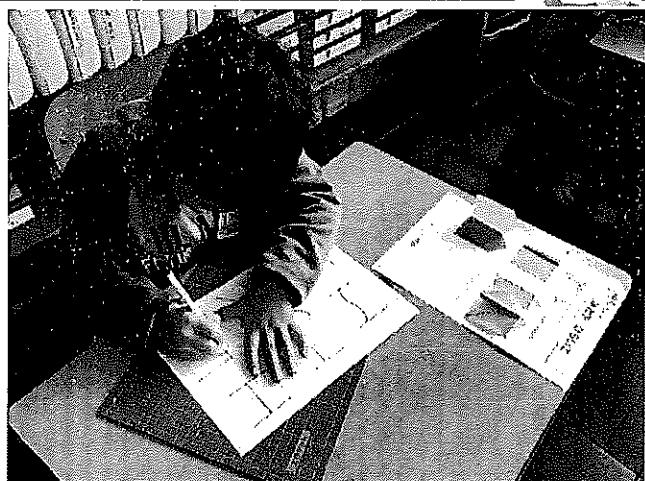
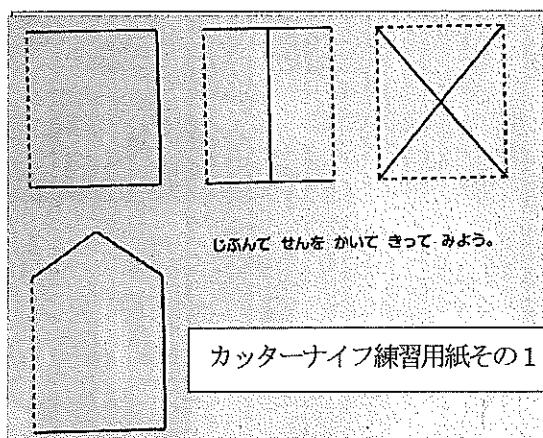
<カッターを つかうときの ちゅうい>

- ① カッターのはは、2目もり ぐらい 出す。
- ② えんぴつの もち方で もつ。
- ③ カッターの 手前に 手は おかない。
- ④ カッターは、まっすぐ 立てる。(ななめ×)
- ⑤ かたつむりの スピードで ゆっくり 引く、
- ⑥ カーブの ところは、紙を 回す。
(いつも カッターは 自分の 方に 引く。)
- ⑦ つかわないとき、はは がならず しまう。
- ⑧ カッターを 人に わたす ときは、はさみと 同じ。(はを 手でかくして わたす。)

※上の注意点を机間指導で声掛けした。

- ③ 練習用紙は、一人2枚(2種類)。できたら工作用紙に鉛筆で下書きをしてからカッターナイフで切る。

ゆっくり手前に引いてね。カッターはまっすぐ立ててね。

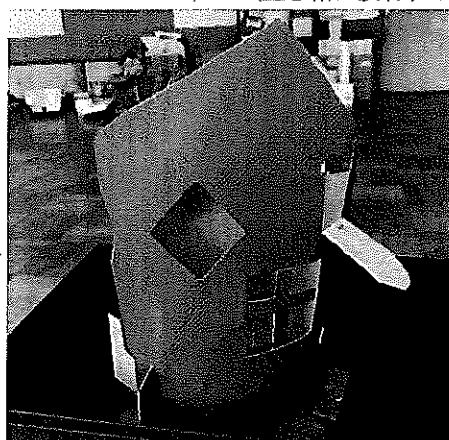


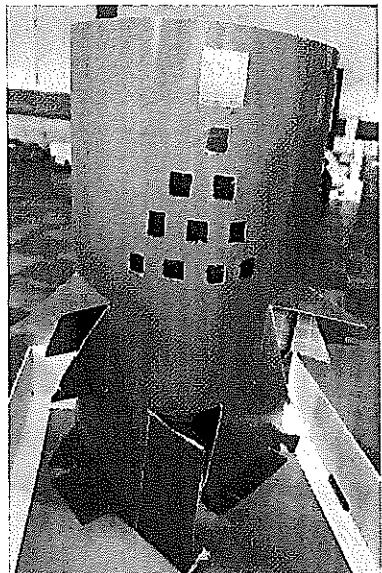
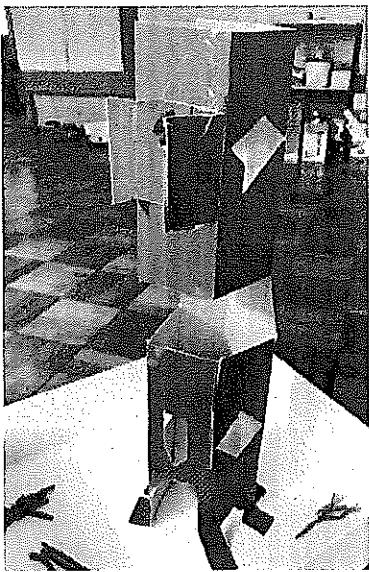
第3次 物語の場面に合った家をつくる。(4時間)

- ① 窓とドアをつくる。



- ② 丸めたり、曲げたり、折ったりして家を建てる。
(空き箱に接着する。)



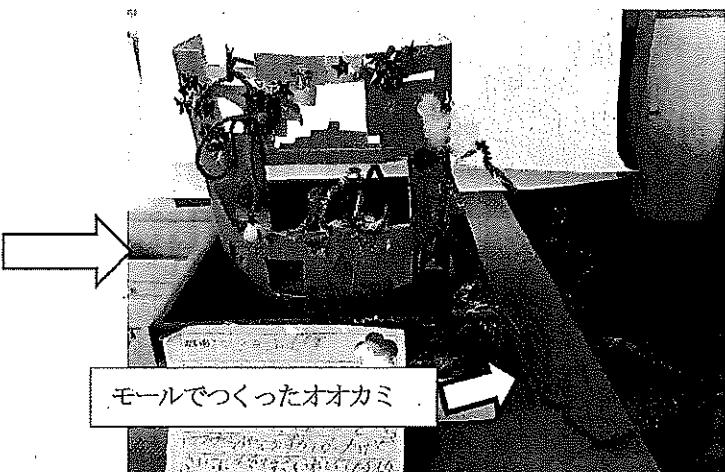


授業終了10分前にミニ鑑賞会を実施

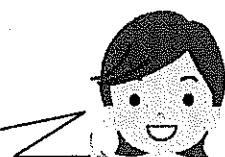
③ 家の中や家の周りに飾りをつける。



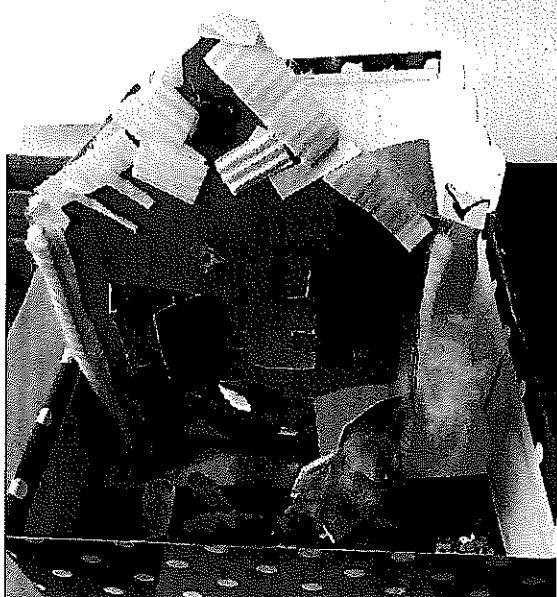
絵本を見ながら



三びきのこぶた

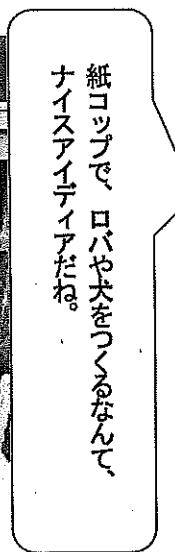


お菓子の家なんだね。どんなお菓子があるのかな。



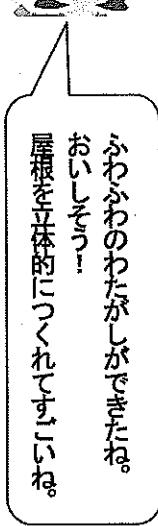


プレーメンの音楽たい



しば犬のチャイ

授業終了10分前にミニ鑑賞会を実施

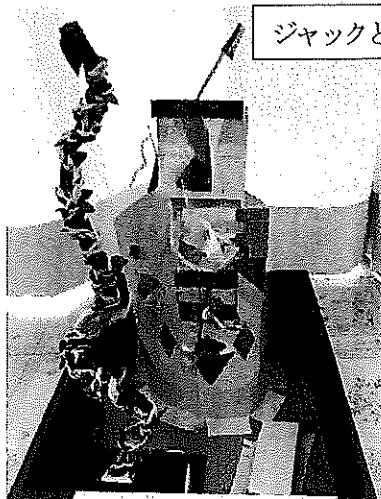


きくち馬太菓子屋

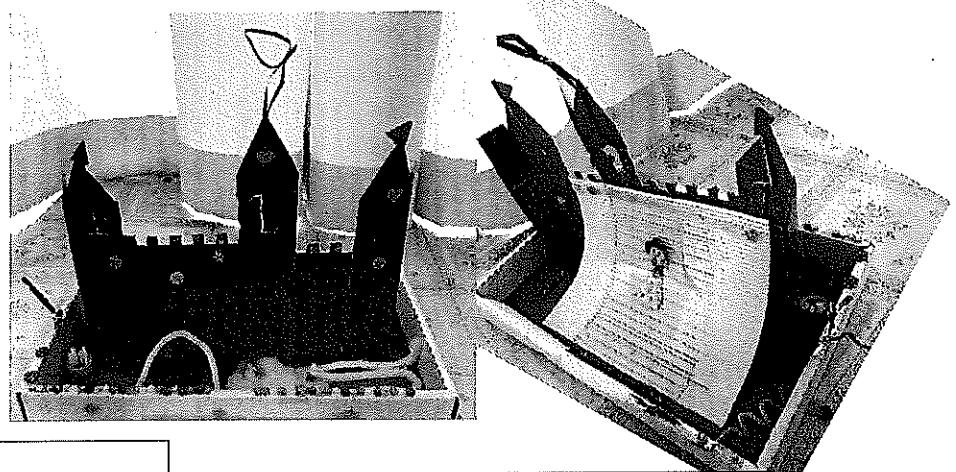
第4次 友達と作品を見せ合いながら、窓の形や家の様子などよさを話し合う。(1時間)

机の上に名前カードを添付した作品を並べ、自由に友達の作品を見て回る。自分の作品の説明をしたり、友達に質問したり、感想を言ったりしながら鑑賞カードによいところを書く。

ジャックと豆の木



美女と野獣のお家（前後）



<友達の感想>

- ・豆の木を針金でつくりないので、上にくねくねと伸びていておもしろいです。
- ・窓にカラーセロファンをはっていてきれいです。私もやってみたいです。

<友達の感想>

- ・階段のところにベルがいるのがよかったです。
- ・塔に旗が立っていたり、ビーズで飾り付けをしていたりしてすてきなお城でした。

III 研究の成果と課題

1 成 果

質 問	集 計 結 果
1 物語を選び、どんな家にしようか思いつきましたか。	はい：30人
2 思った通りにつくることはできましたか。	はい：29人　いいえ：1人（家が曲がってしまった）
3 カッターの使い方で分かったことは何ですか。 (自由記述 複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・刃を出しすぎないこと。(2目もり) 8人 ・ゆっくり引いて切ること。(かたつむりの速さで) 7人 ・カッターナイフの前には、手を置かないこと。5人 ・使わない時は、刃はしまうこと。5人 ・人に渡すときは、刃の方を持って渡すこと。4人 ・鉛筆の持ち方で持つこと。3人
4 お互いの作品を鑑賞してどう思いましたか。 (主な感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・家のつくりが上手な人やすごく目立った人もいました。私もそういうふうにつくりたいです。 ・○○さんのオオカミの形がうまかったです。本当のオオカミと重ねたそうです。 ・みんな全然違う仕掛けがあって見ていて楽しかったです。 ・窓の種類がいっぱいあって、いろんなところについていくつかったです。 ・みんないろいろなものを使っていてよかったです。畑の野菜を画用紙やモール、紙コップなどでつくっていました。 ・もようやデザインがよかったです。 ・豆の木の曲がり方を工夫していて、本当の豆の木のようでした。 ・窓やドアを開けると、人が出てくるのがすごいです。

国語科との合科的・関連的な指導を行ったことで、読書に対しても図工の製作に対しても児童の意欲が高まった。今回は最初に物語の本を用意し、児童に読む機会を与えた。そして、予め「今度の図工では好きなお話を選び、主人公の家をつくる予定です。」と投げかけておいた。このように0時間の工夫としてゴールを先に示したことで、本の選定や場面選び、アイディアスケッチがスムーズに行われた。

また、途中段階の参考作品を提示することで、イメージが湧くとともに、それに縛られない自由な作品づくりができた。本の場面を基に製作したので、困ったときは本に戻るという作業を児童は自然に行っており、最後まで意欲的に取り組む姿が見られた。

児童の思いをできるだけ引き出すために対話を大事にした。「これは、どんな場面なの?」「この家には何があるの?」と尋ねたり、逆に児童からの「屋根を三角にしたい。」「ラップの芯を立てて木にしたい。」などの相談も受けたりすることで、その支援をすることで、自分の思いに合った作品をつくることができ、満足な表情を浮かべる児童がいた。

カッターナイフの扱いについては、拡大図や使い方の注意事項を黒板に貼りだして常に振り返ることができるようになした。児童は、カッターナイフの正しい使い方を学び、練習用紙で何度も試したこと、不安な児童は教師と一緒に行ったこと、工作用紙での失敗も裏からセロハンテープで補習すれば大丈夫だということなどから次第に恐怖心がなくなり、楽しい気持ちで取り組めたことがよかったです。

授業終了10分前に行うミニ鑑賞会では、新たな構想を生み出し、材料集めのヒントになるなど次時への学習意欲が高まった。鑑賞会をすることで、それぞれの作品への思いを分から合い、認め合う優しい雰囲気が生まれた。

図工の授業では、児童が「もう少しやりたい。」という気持ちを尊重しているが、時間がオーバーする問題があり、指導計画通りにいかないことが悩みだった。そこで、今回のように、カッターナイフの指導と想像力を広げて立体作品をつくるという二つの内容をミックスすることで解決することができた。

2 課 題

テーマを「ぼく・わたしが考えた○○の家」と限定したため、本の挿絵をそのまま立体に表そうとする児童もいたので、独創性に欠けるところがあった。また、家の土台を工作用紙でつくること、窓やドアをカッターナイフでつくることなどの条件をつけたため、発想の幅が狭まってしまったところがある。家だけをつくることで終わってしまったが、主人公を紙粘土などでつくることで発想がさらに広がったかもしれない。さらに自由で伸び伸びとした作品づくりができるよう、題材の設定や材料の選択などの工夫をしていきたい。